



三つうらやす

宇部市立上宇部小学校
学校だより 6月号
令和3年6月1日発行

心優しい子に育てるために

校長 三輪 孝行

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために、学校でも御家庭でも様々な制限がかかっています。

学校では、予定していた行事を延期したり縮小したり、場合によっては中止せざるを得ないこともあります。御家庭においても予定していた外出をやむなく中止したり、行事を変更したりすることもあるかと思います。

思い通りにならないことがあると、つい、イライラしてしまったり、人にあたったりしてしまいがちですが、皆様はいかがですか。

先日、本校の児童が、放課後学校に遊びに来ていて、担任の先生に「運動場で一緒に遊んでくれないませんか？」とお願いしている様子を見ました。子どもが担任に寄せる思いを感じ、嬉しく思うとともに、子どもって人の温かさや心根等を求めているんだなと思い、次の詩を思い出しました。

子どものころに 抱きしめられた記憶は ひとのころの、
奥のほうの、 大切な場所にずっと残っていく。

そうして、その記憶は、
優しさや思いやりの大切さを教えてくれたり、
ひとりぼっちじゃないんだって思わせてくれたり、
そこから先は行っちゃいけないよって止めてくれたり、
死んじやいたいくらい切ないときに支えてくれたりする。

子どもをもっと抱きしめてあげてください。
ちっちゃなころは、いつも手をのばしています。 (公共広告機構)

かつて、テレビや新聞の広告等で紹介されたものですので、御覧になられている方もおられるでしょうが、この詩は日頃忘れかけていたことを思い出させてくれる詩です。

私はすでに両親とも亡くなっていますが、今でも、父にキャッチボールをしてもらったことや母に叱られた後に許してもらったこと等、大事に育ててもらったことが思い出されます。

この詩にある「抱かれる」喜びは、子どもの心の奥にずっと残っていて、その人の生き方の指針となっているのではないかと思います。

今、制限がかかった生活を強いられています。これからの将来を生き抜いていかなければならない子どもたちには、家族間でのぬくもりや地域間での言葉のぬくもりをしっかりと感じ取ってほしいと願っています。